

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-106

学校名・団体名	御船町立七滝中央小学校
HPアドレス	http://es.higo.ed.jp/nanataki-c/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	思考力・判断力・表現力を身に付けた児童の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>4月の熊本地震で地域全域が被災し、避難所となった学校の再開には1ヶ月を要した。児童の学力保障、心のケア、体力の低下、過疎化の進む地域の活性化など課題は山積しており、長期的な視野で取り組むことが求められている。本年度は、「思考力・判断力・表現力を身に付けた児童の育成」というテーマで、児童の学力向上、人権学習を中心とした心の学習、地域体験学習による被災した地域の活性化という3つの柱に取り組み、児童が前を向いて生きていく力を育むための研究に取り組んだ。</p>	

【研究期間：平成28年5月～平成29年3月】

時 期	内 容	備 考
5月初旬	・研究の組織づくり ・部会による研究推進	柱①学力向上
6月初旬～下旬	・心の学習旬間（人権集会、人権学習、人権集会）	柱②心の学習
6月初旬～下旬	・地域農園でのタマネギ収穫 ・大津町での田植え体験 ・校区での梅ちぎり ・梅ジュースづくり	柱③地域体験学習
6月下旬～	・校区に残る伝統芸能「寅舞」に関する学習開始（4年生）	柱③地域体験学習
7月初旬	・授業研究会、教材作成、研究授業「国語」（3年生）	柱①学力向上
7月下旬	・職員研修での郷土史学習（講師招へい）	柱③地域体験学習
7月下旬～8月	・1学期の授業研究をもとに、今後の方向性の再検討を図る	柱①学力向上
9月下旬	・授業研究会、教材作成、研究授業「国語」（1年生）	柱①学力向上
9月～10月	・地域敬老会での伝統芸能披露 ・大津町での稲刈り ・学校農園での芋掘り	柱③地域体験学習
10月下旬	・子ども芸術祭（山鹿八千代座）での「寅舞」披露	柱③地域体験学習
10月下旬	・授業研究会、教材作成、研究授業「国語」（5年生）	柱①学力向上
11月上旬～下旬	・心の学習旬間（人権集会、人権学習、人権集会）	柱②心の学習
11月上旬	・授業研究会、教材作成、研究授業「国語」（2年生）	柱①学力向上
11月中旬	・10周年記念式典 ・学習成果発表会	柱③地域体験学習
12月上旬	・授業研究会、教材作成、研究授業「国語」（6年生）	柱①学力向上
12月上旬～中旬	・地域農園でのタマネギ植え ・餅つき会 ・お茶会	柱③地域体験学習
12月中旬	・授業研究会、教材作成、研究授業「国語」（4年生）	柱①学力向上
1月～2月中旬	・心の学習旬間（命に関する学習旬間：公開授業）	柱②心の学習
2月上旬	・井上伸円先生を招いた授業改善研修会	柱①学力向上
2月中旬	・授業研究会、教材作成、研究授業「生活単元学習」	柱①学力向上
2月下旬	・地域老人会を講師に招いての昔遊び交流会	柱③地域体験学習
3月上旬	・研究のまとめ：報告書作成	

【研究の内容】

研究主題：『思考力・判断力・表現力を身に付けた児童の育成』

1 研究主題について

(1) 「思考」「判断」「表現」とは

1つ1つの個別の力としてではなく、既習の知識や技能を用い、課題を解決するために必要な総合的に関連した力として捉える。そのため、既習の知識や技能、自らの生活経験等と関連付けながら主体的に考え、他者とともに学び合う学習活動を工夫し、主体的に問題解決をすることで、思考力・判断力・表現力を高めることができると思う。

2 研究の構想

(1) 研究の仮説

児童に基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、それらの活用を図る学習活動を、教師が意図的・計画的に実施することで、児童の自ら学ぶ意欲が向上し、思考力・判断力・表現力を育むことができるだろう。

(2) 研究の視点

視点①：授業の工夫改善

焦点化した分かりやすい課題設定により、児童が課題を正確に理解し、発問、ワークシートなどの工夫した活動により、児童の学習への興味・関心を高める

視点②：心の学習

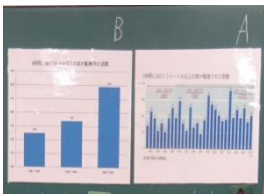
意図的・計画的に人権学習に取り組むことで、児童の心を豊かにする

視点③：地域体験学習

地域の方々と連携・協力した取り組みを推進することにより、被災した地域の活性化を図るとともに、児童が、地域（ふるさと）に関心を持ち、誇りや愛情を感じる

(3) 研究の実際

《視点①》授業の工夫改善事例（5年 天気を予想する）（4年『クラブ活動リーフレット』を作ろう）



教科書で使用されているグラフと、自作のグラフの2つを提示し、「自分なら、どちらのグラフを文に使用するか。」という焦点化した課題を設定した。(図①) 児童は、自分が選んだグラフのよさや根拠となる文章を探して、理由を考えた。このように児童の興味・関心を高める課題を提示することで、児童が考え、仲間とともに学び合う学習ができ、思考力を高める学習ができた。

【図① 課題提示の工夫】



意見が分かれる発問をする際には、誰がどんな考えを持っているのか分かるように選択肢ごとに児童が自分の考えのところに名札を貼り、思考の見える化を行った。(図②) このように児童が全体の意見の状況や意見の移り変わりを視覚化することで、児童の判断力・表現力を高める学習ができた。

【図② 思考の見える化】

《視点②》心の学習（仲間を大切にすると人権学習：全学年）



学校再開後、2度の大きな揺れの経験と引き続く余震から不安を抱く児童が多かった。SCによるカウンセリング、SCと養護教諭によるストレスマネジメントの授業等、児童の心のケアに力を注いだ。また、学期ごとに人権旬間を設定し、児童が思考・判断する人権学習の充実に向けた。この学習で、児童は自分と同じように仲間を大切に、共に協力して生きることを学び、元気を取り戻していった。(図③)

【図③ 人権学習の充実】

《視点③》地域体験学習事例（玉ねぎ収穫・栽培等を通しての地域連携）

玉ねぎ



玉ねぎ収穫



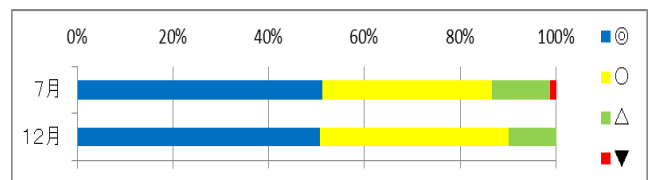
玉ねぎ植え



交流給食会

【成果や児童への効果等】

授業の内容やめあての理解に関しては、約90%の児童が「思う」と答えている。(図④) これは、本校がめざしている児童全員参加の分かる、できる授業づくりが少しずつ形となってきている成果であると考えられる。課題設定の工夫で、児童の学習に対する意欲が高まりが見られ、課題に対する児童の意見が見える化することで、学び合いが活発に行われるようになり、多様な意見がでるようになった。また、人権学習を学期ごとに意図的計画的に設定することで、震災後の不安やストレスを抱える児童の心のケアの充実を図ることができた。震災当初は、不安を感じる児童が多かったが、心配された不登校傾向の児童など現在まで見られていない。さらに、地域体験学習により、地域住民と連携した体験学習を実施し、被災した地域の方々が児童と関わり少しでも笑顔を取り戻せる機会を大切にしたい。学習応援団として児童の学習に携わっていただいた地域の方々と一緒に震災後の地域の活性化に、「地域と共にある学校」として貢献していきたい。



【図④ 授業の内容がよく分かる】